

【地すべりと地下水】・・・現場実態



※ボーリングによる
地下水排除工のポイント

冠頭部付近から地下水が供給
されるとすれば、これを中心
に、キレツおよび地すべり底面
を貫く形とする必要がある。



左岸側滑落崖 (高さ 10m) 直下付近に粘土化した領域とわずかな湧水あり。現滑落崖より数メートル背面には馬蹄形の旧滑落崖 (落差 0.5m 前後) を形成。旧地すべりの再滑動であり、上記地下水による揚圧力の高まりが誘発したものと考えられる。

地すべりに関与する地下水は貧相な裂け水であり、豪雨時に活発化? とすれば、調査時に地下水が確認できない場合でも、地下水排除工の計画は必要!

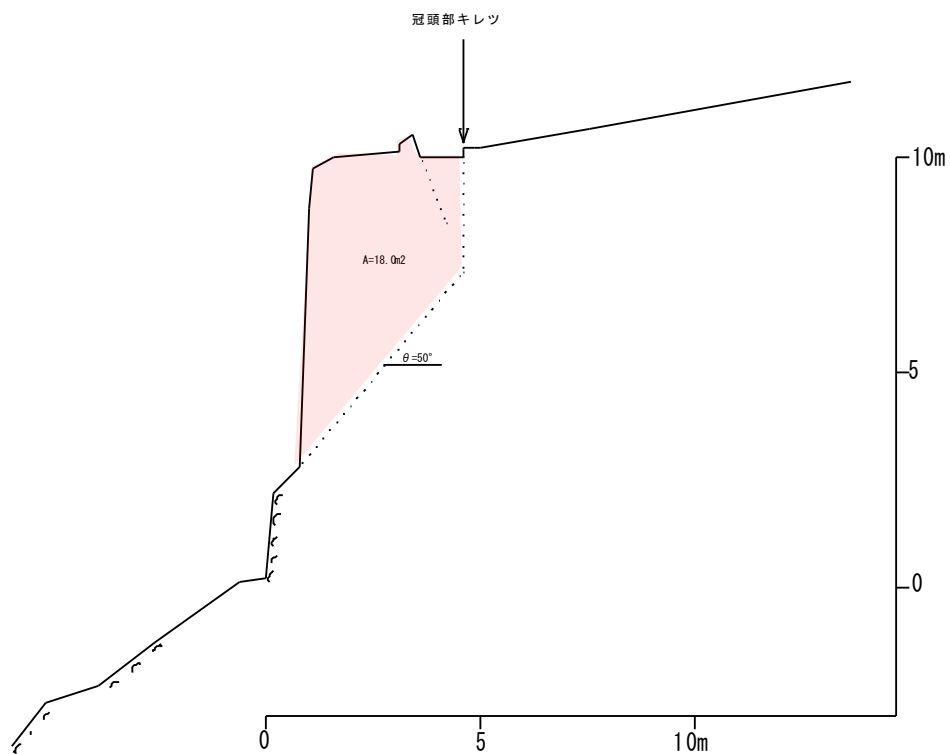
【岩盤地すべり】・・・琉球石灰岩（層内に流入粘土を含むなど、アンカーの定着に苦勞するようである）
幅 19m，斜面長 25～30m，層厚 3～6m，すべり面傾斜 45°（単斜状）。写真位置では，移動層内下位ほど攪乱され空洞部が多い。発生時期はかなり古く，退行性すべりの様相。



工事前

【岩盤すべり】・・・花崗岩

幅 21m, 斜面長 6~7m, 層厚 3~6.5m. 斜面最大傾斜方向に斜交する形で滑動 (板状すべり). 右岸側ほど層厚が薄く, ほぼ崩壊する.





写真上：末端部（地すべり中央付近）。すべり面粘土なし。写真左からやや右方向へ滑動。

写真左：上記写真の延長上の露岩。地すべり土圧により剥離（スライス状）したものと推定される。